

ピアニスト・くりんくらん代表

いまやさきこ
今屋 早紀子 さん (39歳)

4月6日に文化会館で開催された「くりんくらんスペシャルコンサート」。市内在住の今屋早紀子さん(ピアノ)と椎屋優香さん(フルート)、小林市に縁のある柄本舞衣子さん(ハープ)の3人による演奏に加え、えびの市在住のアーティスト入江万理子さんの絵とRCC子うさぎ文庫の坂下実千代さんによる朗読に演奏を合わせた大迫力の演目など、見て、聴いて、楽しめるコンサートとなった。

「音楽の楽しさを伝えたい」とコンサートを主催した、「くりんくらん」代表の今屋さんに話を聞いた。

音楽の楽しさを伝えられる人になりたい

「音楽が日常のそばにあって、ちよっとした彩りを添えるものになってほしい」と話すのは今屋早紀子さん。4歳からピアノを始め、大学院修了後ドイツ留学などを経て、平成23年に帰郷。

現在は、個人教室でピアノを教えながら、音楽活動やコンサート活動を精力的に行っている。「これまで教わってきた先生

やのびのびとピアノを続けさせてくれた両親のおかげで、音楽が楽しいという気持ちでこま

で来れた」と今屋さん。
昨年まで音楽の講師を務めた小学校や中学校、そして運営するピアノ教室でも、音楽を楽しんでもらうことを第一に考えてきた。根底にあるのは、楽しいときだけでなく辛いときにも音楽が自身の支えとなってきた経験と、それに基づく「音楽の楽しさを伝える人になりたい」という想いだ。

そんな今屋さんが、音楽の魅力を伝える活動の一つとして立ち上げたのが「くりんくらん」。「カランコロン」と鳴る軽やかなドアのベルの音色を表すドイツ語が由来で、音楽の扉を開け

て気軽に音楽を楽しんでほしいとの想いを込めた。

「くりんくらん」として初開催した4月6日のコンサートでは、フルート・ハープとのアンサンブルで観客を魅了したほか、手遊び歌や演奏×絵×朗読を組み合わせた演目など、子どもから大人まで楽しめるコンサートとなった。

演奏することだけにとらわれないさまざまなプログラムは、コンサートのサポートを行ったメンバーのアイデアによるもの。「演奏者とは違った目線での意見がとても新鮮で、大きな刺激を受けた」と振り返る。

「いろいろな分野の人と交わることで、音楽の楽しさがより伝わって気軽に楽しめるコンサートになると感じました」。

今後もしさまざまなかからアイデアをもらいながら活動していきたいと話す今屋さん。目指すのは音楽好きな人だけでなく、足を運んだことのない人たちにも「よかった」、「また来たい」と思ってもらえるコンサート。音楽の輪が広がっていくことを願って、今屋さんの活動は続く。

ワクワクや心が震える経験を味わえるのが音楽の面白さと今屋さん。日常の楽しかったことの一つにコンサートが入るようになってうれしいと話す

ピアノのレッスンは、生徒に「楽しんでもらうことを一番に」。それぞれの立場やピアノへの想いを感じ取って寄り添えるようにと心掛けている

小林 小人

こばやしびと
Vol.121

